

2008 年度バイオクライマティックデザイン小委員会 第 3 回議事録

(兼 出版準備ワーキング)

日時：2008 年 12 月 4 日 (金) 17:00-19:00

場所：建築会館 会議室

出席者：

北瀬幹哉 (環デザイン舎)、鈴木伸恵 (武蔵工業大学)、須永修通 (首都大学東京)、長谷川兼一 (秋田県立大学)、廣谷純子 (オーガニックテーブル (株))。

議題議事録：

出版企画案 ver.4 について検討を行なった。

キーワードとして、「バイオクライマティックデザイン」、「環境工学」、「測る」、「住まい方・住まい手」、「体感・実感」、「地域性」が挙げられた。

読者対象を以下と想定した。建築学科の学生、設計者、研究者 (行政・住まい手)

ただし、対象が広いと文章や説明の仕方に統一性がなくなる可能性があるので、原稿を書く時の読者のイメージは、建築関係者とする。

章立てと内容案について

第 1 章 バイオクライマティックデザインとは・・・何か。

内容： 環境建築、サステナブルビルディングなど、さまざまな名称の整理をする。

カテゴリー、歴史、派閥 (?) を通して、バイオクライマティックデザインを説明すると良い。学生の卒論、修士論文などのテーマにもなるのではないかと。歴史の流れを物件で説明するのではなく、言葉の発祥、国際会議の歴史などから、現在の事柄の起源を明らかにする。PLEA の歴史、計画言論から環境工学への流れの説明も必要ではないか。例えば、コラムで触れることができる。

第 2 章 バイオクライマティックデザインをみつける・・・\*事例の選択が重要である。

内容に関しては、光・熱・空気・(音)・(水)・・・(建築計画原論再考) がヒントになる。

日本の気候の概要を紹介、IV 地域を 2 つに分けた新しい気候区分を用いて、各地域の特徴と建物を紹介 → 解説に用いる (内容が濃い) ものと、紹介にとどめるもの、2 種類があるか? 事例を用いて、「光・熱・空気」など原理的な部分から初めて、「断熱・通風換気・自然採光」などの技術を解説する。

事例： 日土小 (通風換気、自然採光など)・小玉邸 (断熱、蓄熱) など

「バイオクライマティックデザインを味わう」といったテーマの住まい手側のことについても紹介するのが良いのではないかと。その他：太陽熱給湯など、技術の話を入れるべきではないか。→新エネ技術も含まれている事例であるとよい。

第 3 章 バイオクライマティックデザインをはかる内容：環境測定ポイントと見方

簡単な測定の仕方 (機器紹介を含む)。測定結果の見方とそれによってわかることの解説。

・計測結果の評価の仕方を示し、住まい方の参考になるような方針とする。

→ 広告営業をしてみる。合わせて出版助成を探す

おわりのことば・・・( )

その他 ・索引 キーワードが逆引きできるような索引

・コラム 各章に関連するような内容のコラムを間に挟む

進め方等について

スケジュール 平成21年度末に校了を目指す。

紹介候補事例を会議で議論する、現地に見に行くなどをしながら、掲載物件を決める。

→ 議論を通して、本の中身を作成する。

次回について

・これまで見学に行った物件について資料を見ながら、議論をしてみる。

・各地域の候補作品を紹介し合う。

開催予定：2月3日（火）場所：建築学会会議室

以上

作成：廣谷純子